

津波や高波による被害

昭和58年の秋田県能代沖を震源とした日本海中部地震や、平成5年の北海道の奥尻島付近を震源とした北海道南西沖地震では、大きな津波の被害が発生しました。

平成16年には、10個の台風がわが国に上陸し各地に多くの被害をもたらしました。



民家の庭先まで流出した漁船(北海道奥尻島)



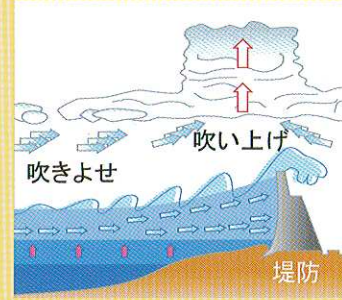
平成16年8月の台風16号により浸水した市街地。(香川県高松市)

地震による被害



平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災では神戸市で震度7の大きなゆれを観測し、港や道路も大きな被害を受けました。

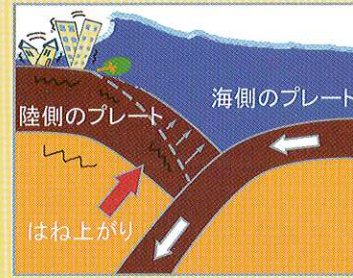
地震、津波、高潮はこうしておこる!



高潮は、台風が海面を吸い上げる力と、強風による吹き寄せにより生じます。



海側のプレート*により、陸側プレートが引きずりこまれ、陸側のプレートが元の位置にもどろうとして跳ね上がったときに生じるゆれが地震です。



プレートが跳ね上がると、海面が盛り上がり、四方に広がります。これが津波です。

*プレートとは、地球の表面をおおう厚さ約100kmのかたい板状の岩石層で、年間数cm~10cmの速度で移動しています。

昭和54年6月18日第三種郵便物認可 育て!子どもたち
平成17年3月17日発行 第1300号
定価400円(毎週木曜日発行) 発行所 サンケイ新聞写真ニュースセンター
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-4-2
TEL 03-3231-0531

災害から暮らしを守るために、港には様々な施設があります

水門・こう門



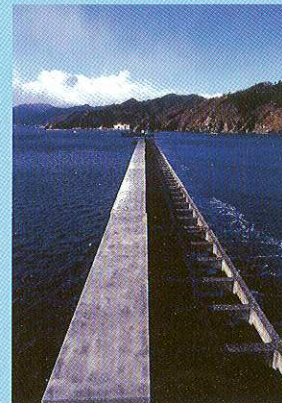
台風などにより水位が上昇したときには水門を閉め、標高の低い地域を浸水から守ります。(東京都辰巳水門)



水門や堤防で港やまちを囲うと、船が自由に通れなくなります。そこで、船が通れるようにこう門と呼ばれる施設を整備しています。(兵庫県尼崎こう門)

防波堤

台風などによる高波はもちろんのこと、津波から港や町を守るために防波堤が造られています。



釜石の津波防波堤

明治29年の岩手県沖で発生した明治三陸地震で6mの津波がおし寄せた岩手県の釜石港では、津波から町を守るために、水深63mのところ防波堤を造っています。
写真提供=(社)時事画報社



高潮防波堤

名古屋港高潮防波堤

昭和34年の伊勢湾台風による水害を教訓に建設された日本一長い高潮防波堤で全長7.593mに及びます。

地震に強い岸壁

地震が発生し道路が寸断したときにも船で食料などを運べるように、地震に強い船をつなぐ施設(岸壁)が全国の港で整備されています。

地震に強い岸壁の整備状況

- 整備されている港
- これから整備する港



制作協力=21世紀みなとづくり推進実行委員会/国土交通省港湾局

港③ 私たちの暮らしを守る港

わが国は、地震や台風におそわれることが多く、海に面した地域では、津波や高潮の危険にさらされています。港には、これらの災害から私たちの暮らしを守るための施設があります。

地震が起こったときに、私たちが生活していく上で必要な水や食料を船で運べるように、港の施設の強化を進めています。

また、津波や高潮などから、私たちの暮らしを守るために、防波堤や水門、堤防などの施設を整備しています。

